

栃木

Excursion
to Tochigi
エクスカージョン
～大人の遠足～



【蔵の街探訪】

蔵の街として知られる栃木市は、江戸時代から市の中心部を流れる巴波川（うずまがわ）を利用した交易によって栄えてきました。市内には、江戸、明治、大正とその時代を語り継ぐ歴史的な建造物が数多く残されています。街の魅力は、歴史と文化が調和し日常生活の中に息づいていること。きっと訪れる人に懐かしさや安らぎを与えてくれるでしょう。

江戸時代より例幣使街道の宿場町として、また、舟運で栄えた問屋町として、北関東の商都と呼ばれた。京都から日光に至る例幣使街道が通る栃木の宿は、東照宮に参拝する西国の諸大名も通り、賑わいを見せた。この例幣使街道の一部が今の中心街をなす大通りや嘉右衛門町通りであり、その両側には黒塗りの重厚な見世蔵や、白壁の土蔵群が残り、当時の繁栄振りを偲ばせている。

秘密のグルメスポット

手打そば 太郎庵 ふく田

そばと天ぷらと異なる道で修行してきたという兄弟が作るそばで人気。うまいそばとうまい天ぷらをモットーにしているだけあり、その味は訪れた人を笑顔にさせます。十割そば800円も好評。



小えびかき揚げ天ざる
1,100円



栃木市万町4-1(とちぎ蔵の街観光館内)
TEL・FAX 0282-25-1241
■営業時間／〈昼〉11:00～15:00 〈夜〉17:00～21:00
■定休日／月曜日(祝日の場合は火曜日)
■最寄駐車場／蔵の街第1駐車場

ALWAYS カマヤ

昭和9年に足利銀行として建造され、現在、国登録有形文化財に指定された建物を利用したレストランです。映画「ALWAYS 三丁目の夕日」のロケ地として使用されるなど、観光やお食事等、多くの人々に親しまれています。地元食材を中心にした親しみやすい洋食を、昭和レトロな空間でお楽しみください。一番人気は、なんと「とちぎ和牛」入りの「特製ハヤシライス」。濃厚でコクがあり、どこか懐かしい味。ぜひ一度は召し上がっていただきたいメニューです。



栃木市万町15-25 TEL・FAX 0282-22-0457
■営業時間／月～金〈昼〉11:30～15:00 〈夜〉17:30～21:00(LO 20:00)
土日祝 11:30～21:00(LO 20:00)
■定休日／月曜日(祝日の場合は営業することもあり)
■最寄駐車場／専用駐車場

蔵の街遊覧船



20分ほど流れに乗って、船頭が巴波川（うずまがわ）のほとりを案内してくれます。舟の上から街なみをゆっくりとお楽しみください。

■乗船料／大人(中学生以上) 500円、小人(小学生以下) 300円
※団体20名以上で各100円引き

- 所在地／栃木市 巴波川 幸来橋付近(塚田歴史伝説館隣)
- 営業時間／(3月～11月) 10:00～16:00 (12月～2月) 11:00～15:00
- 定休日／毎日運行 ※年末年始はお休み ※天候や水量の状況により中止する場合があります
- 問い合わせ／TEL 0282-23-2003
- 最寄駐車場／蔵の街第1・3・5 駐車場
- アクセス／栃木駅から徒歩10分 駐車場から徒歩3～5分



とちぎ蔵の街美術館



およそ200年前に建てられた土蔵3棟「善野家土蔵 一通称おたすけ蔵」を改修して美術館として現代に甦らせました。栃木市ゆかりの作家の作品を中心に収蔵し、美術や文化に関する発信基地として、また、観光の振興にも寄与しています。「浮世絵美人くらべ」10月9日(火)から12月9日(日)まで開催。

■入館料／大人 300円(団体200円)、小中学生 100円(団体50円)
※団体は20名から ※企画展によって別途料金になる場合があります。

- 所在地／栃木市万町3-23
- 営業時間／9:00～17:00(入館は16:30まで)
- 定休日／月曜日・祝日の翌日(月曜日が祝日の場合は翌日)、年末年始、展示入替の為に休館あり
- 問い合わせ／TEL 0282-20-8228 FAX 0282-20-8227
- 最寄駐車場／蔵の街第1 駐車場
- アクセス／栃木駅から徒歩15分、駐車場から徒歩2～3分



岡田記念館



岡田家は550年以上の歴史をもつ旧家で、江戸時代には畠山氏の陣屋となっていました。4,000坪にも及ぶ広大な敷地に残る土蔵には岡田家伝来の宝物が展示されています。

■入館料／大人 700円(団体600円)、小人 350円(団体250円)
※団体は20名から

- 所在地／栃木市嘉右衛門町1-12
- 営業時間／9:30～17:00(入館は16:30まで)
- 定休日／金曜日(祝日の場合は開館)、年末年始
- 問い合わせ／TEL 0282-22-0001 FAX 0282-22-0039
- 最寄駐車場／専用駐車場あり
- アクセス／栃木ICから10分



大中寺の七不思議

七不思議が伝わる
曹洞宗の寺

- 枕返しの間** ある旅人が寺に一夜の宿を乞い、この部屋で本尊のほうに足を向けて寝たところ、翌朝目が覚めると頭が本尊のほうに向いていたという。
- 馬首の井戸** 土地の豪族、見石太郎が戦いに敗れて寺に逃げ込んだ時、かくまってくれないのを恨み、馬の首を斬って井戸に投げ入れたが、後になって井戸の中からいななきが聞こえたという。
- 油坂** ある学僧が燈をつけるため、本堂の燈明の油を盗んで追われ、この石段から転げ落ちたのが原因で死んでから、この石段を上下すると禍いに遭うという。
- 不断のかまど** ある修行僧が、かまどの中に入って居眠りをしていて、それとは知らずに寺男がたき火をつけたため焼け死んでしまった。それ以来、このかまどには火を絶やさなくなったという。
- 根なしの藤** 大中寺の開祖、快庵妙慶禪師が鬼坊主の霊を弔うため、墓標としてさした杖から生じたといわれる藤の古木。(上田秋成「雨月物語」青頭巾の話)
- 不開の雪隠** 土地の豪族、見石太郎の妻が敵に追われてこの雪隠の中に逃げ込んで自殺してからというもの、開かれたことがないといわれている。
- 東山の一口拍子木** 寺の東の方にある山で拍子木の音が一声聞こえたと、必ず寺に異変が起きると伝えられており、その声は住職だけにしか聞こえないという。



■所在地／
栃木市大平町西山田252
■最寄駐車場／
専用駐車場あり

